HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	直示と参照の観点から見直す日本語授受表現
Author(s)	山下, 好孝
Citation	国際広報メディア・観光学ジャーナル, 33, 113-127
Issue Date	2021-10-29
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/83309
Type	departmental bulletin paper
File Information	09_yamashita.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

Jimcts

直示と参照の観点から見直す日本語授受表現

北海道大学高等教育推進機構国際教育研究部　教授
山下　好孝

Analysis of Japanese Giving and Receiving Verbs from Deictic and Contextual Points of View

YAMASHITA Yoshitaka

abstract

In Japanese there are three giving and receiving verbs: AGERU, KURERU and MORAU. This study aims to analyze these three verbs from deictic and contextual points of view.

In deictic situations, where the speaker and the hearer communicate to each other, only AGERU and KURERU are used. In contextual situations, third person participants are introduced. They are described as Outgroup persons. Acts of giving and receiving between Ingroup persons (speaker and hearer) and Outgroup persons are expressed mainly by AGERU and MORAU.

In addition there are ~TE AGERU and ~TE KURERU constructions with non-person subjects. These do not carry the meaning of doing benefactive actions, but express the speaker's feeling or evaluation.

Finally I recommend that at the beginner level of Japanese the pair of AGERU and KURERU should be taught first in the context of interaction. The use of MORAU should be introduced later in the context of reporting language use.

1 はじめに

日本語には「やりもらい動詞」という名称で知られる一連の動詞が存在する。以下のものがそれに相当する。

1）あげる、くれる、もらう

さらにこれらのバリエーションとして、以下のようなものもある。

2）やる、さしあげる、くださる、いただく　ちょうだい、ちょうだいする

これらの動詞は、実際の物品の授受を表す用法と、補助的な動詞として行為の恩恵性を表す用法が存在する。

3）私は　友達に　辞書を　あげた。（モノの授受）
4）私は　友達の　部屋を　掃除してあげた。（恩恵の行為）

これらの授受動詞の説明としては、モノや行為の方向性の観点から論じたものや、各動詞の視点の置き方の違いから論じたものなどがある。

日本語教育でよく使われる『みんなの日本語Ⅰ』の英語版文法解説では、「あげる」はgive系の動詞、「もらう」はreceive系の動詞として、他のペアになる動詞群と同様の関係があるとしている。

5）give系の動詞
⑤［わたしは］木村さんに　花を　あげました。
⑥［わたしは］イーさんに　本を　貸しました。
⑦［わたしは］山田さんに　英語を　教えます。
6）receive系の動詞
⑧［わたしは］山田さんに　花を　もらいました。
⑨［わたしは］カリナさんに　CD　を借りました。
⑩［わたしは］ワンさんに　中国語を　習います。

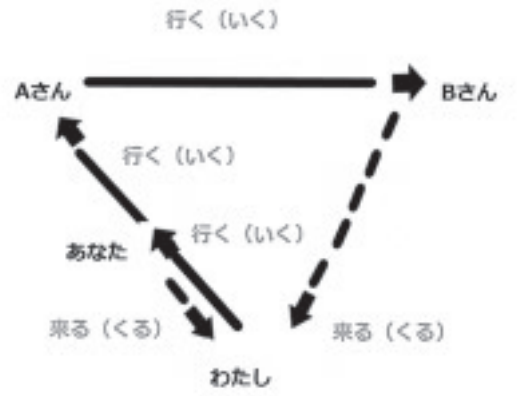
スリーエーネットワーク（2013）p50

しかしながら、「あげる／もらう」「貸す／借りる」「教える／習う」を反意語のペアとして教えると、「くれる」や「教わる」などの動詞の導入の際、不都合が生じてしまう。「くれる」と「もらう」、または「習う」と「教わる」の違いが学習者に分かりにくくなってしまうからである。

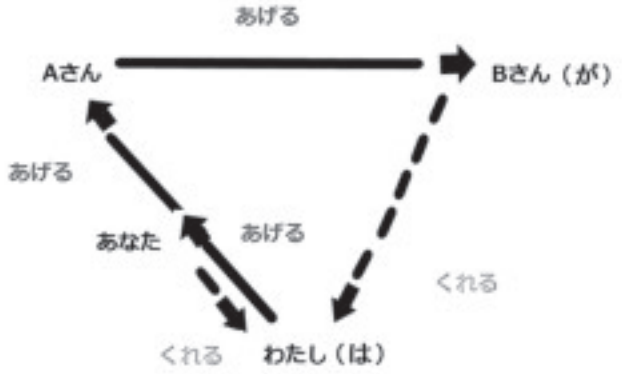
また、「あげる」と「くれる」のモノの移動に関しては、移動動詞「行く」と「来る」の方向性と同一であるとする説明もある。

山下 好孝 YAMASHITA Yoshitaka

■図1 「行く」「来る」の移動の方向性



■図2 「あげる」「くれる」のモノの移動方向



この説明だと、「あげる」と「くれる」の移動の方向性は明快に説明できるが、同じ方向性を持つ「くれる」と「もらう」の使い分けについては混同される可能性がある。

さらに、視点に基づく分析では次のような使い分けの説明がされている。

7）私が彼に辞書をあげた。
　視点　与え手
8）彼が私に辞書をくれた
　視点　受け手
9）私が彼に辞書をもらった。
　視点　受け手

しかし、次の文ではどうだろうか。

10）彼は私に辞書をくれた。

この文は「主題」である与え手の「彼」の側から叙述した文であるとも考えられ、「受け手」である「私」に視点があるとの見方とは齟齬が生じる。

本研究ノートは、複雑な日本語授受動詞の用法を「直示」と「参照」という観点で分けた「発話の場」の中で説明しようとする試みである。「発話の場」を区別することによって、生起する動詞に違いが生じる。また「発話の場」は従来主張されてきた日本語の「ウチ」の世界と「ソト」の世界とも関連する。これらを区別することによって、従来十分に説明されてこなかった授受動詞の用法も明確化されることを主張する。

2 二項関係のコミュニケーション：「直示」的発話の場

織田（2016）に興味深い図が提示されている。

■図3　外界と精神の及ぶ範囲



織田（2016）p.120

植物には精神は存在しないが、動物と人間には存在する。しかし、動物の精神の作用は彼らを現時点で取り巻いている空間の中に限られる。つまり、今、その場所で感知できる物にしか動物は関心を示さないのである。たとえ動物たちの間に「言語」があるとしても、それらが作用するのは現在の事柄に限定される。動物が昨日食べた餌のことを話し合ったりはしないのである。それに対し、人間は自分たちの存在する外界の外の世界に関心を持つことができるし、過去の世界と未来の世界のことがらも思索の対象とすることができる。もちろん、このようなことができるのは人間の持つ「言語」の力による。言語能力の獲得によって自分のいる環境の外にも、過去や未来の仮定の世界にも、精神の活動の範囲を広げたのである。

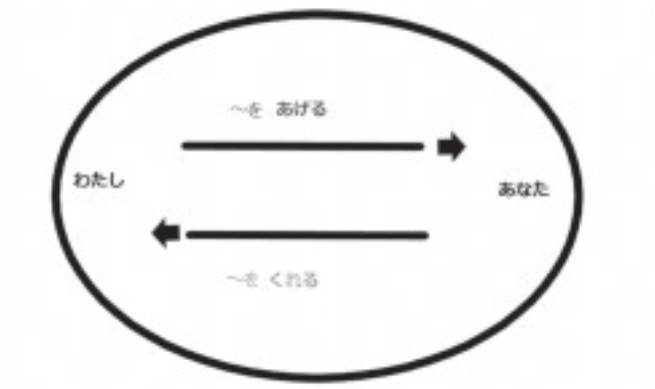
しかしながら、人間も言語が十分に身についていない段階では、現在いる環境の外のことや、過去や未来のことを言葉でやりとりすることはない。たとえば母親と幼児の間のコミュニケーションを考えてみよう。このような場

山下 好孝 YAMASHITA Yoshitaka

では「話者」と「聞き手」は母と子の間に限定される。さらに、そのコミュニケーションの場にある事物のみがコミュニケーションのなかで取り扱われる。これを「二項関係のコミュニケーション」と名付ける。

二項関係のコミュニケーションにおいても授受のやりとりは生じるが、そこに現れる授受動詞は「あげる」と「くれる」に限られる。

■図4　二項関係のコミュニケーション（1）



11）（お母さんと子供のケイちゃんの会話）
お母さん：ケイちゃん、ボール、ちょうだい。
ケイ　　：いやだ。あげない。

二項関係の中では「あげる」と「くれる（ちょうだい）」は生起するが、基本的に「もらう」が使われることはない。

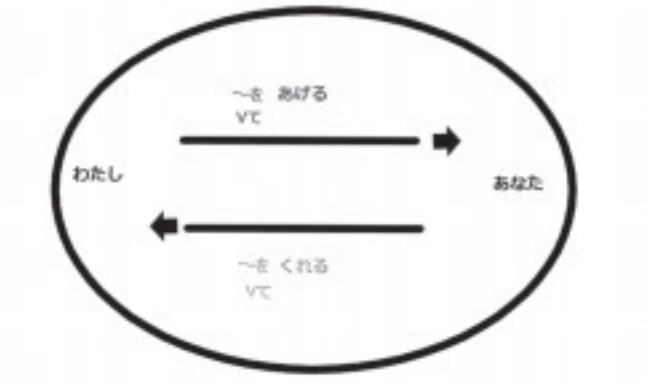
12）お母さん：ケイちゃん、ここにボール、あるよ。
ケイ　　：それ、ちょうだい。
13）お母さん：ケイちゃん、ここにボール、あるよ。
ケイ　　：?? それ、もらう。

ただし、例外的に、本動詞的な「もらう」や「もらう」の可能形なら生起することもある。

14）（二人の友人間で）
A：ねえ、ウチの猫が子供を産んだんだけど、一匹もらってくれる？
B：うん、いいよ。
15）C：D君、もうひとつチョコレートもらえる（もらってもいい）？
D：はい、どうぞ。

授受動詞が補助動詞として使われる場合も同様である。やはり生起する動詞は「～てあげる」「～てくれる」に限られる。

■図5　二項関係のコミュニケーション（2）



16）（母親と息子の会話）
母親：ケイちゃん、皿洗い、手伝ってくれる？
ケイ：いいよ。
17）（友人同士の会話）
A：荷物、重そうだね。一つ持ってあげようか？
B：うん、おねがい。

以上のようなコミュニケーションの場における授受動詞は、山下（2016a）、（2016b）、（2017）、（2020）などで主張してきた直示的な用法であると考えられる。直示的な用法というのは、「話者」の「現在」の「ここ」を起点としたコミニュケーションの用法のことである。日本語教育においても、まず学習者が学ぶのは「話者」と「聞き手」からなるやり取りの文型となっている。挨拶や依頼形、自分の状況を相手に伝える表出など、話者と聞き手が関与するコミュニケーションから学習を始める。これらは「やり取りの文型」と名付けられる。やりとりの文型が現れる発話の場は、直示的な用法が基盤にある。

さらに、この直示的なコミュニケーションの場では、主語である「わたし」や「あなた」が顕在化しないのが普通である。

18）（母親と息子の会話）
母親：?? ケイちゃん、あなたは、皿洗い、手伝ってくれる？
ケイ：いいよ。
19）（友人同士の会話）
A：荷物、重そうだね。　＊ぼくは／? ぼくが　一つ持ってあげようか？
B：うん、おねがい。

この点に関して、横田（2009）では「日本語の視点」の観点から説明をしている。この「日本語の視点」というのは「日本語的な事態把握の仕方」といった意味で使われている。「日本語の視点」により、一人称を言語化する必要がなく、常に一人称の内の視点から物事を捉えているという説を横田（2009）

は主張している。しかし、直示の場では一人称だけでなく、聞き手である二人称も言語化されない。この点は、英語や中国語の場合と大いに異なる。

日本語学習がさらに進むと、今度は起こった出来事を相手に伝えたり、第三者の情報を伝えたりする文型を学ぶことになる。例えば「受け身形」や「使役形」や「伝聞」などの文型である。これらを「報告の文型」と名付けることにする。報告の文型が現れる発話の場で扱うのは、コミュニケーションの場や発話時点の外で起こった事柄である。

次の節で扱う授受動詞「もらう」は「報告の文型」に現れるものである。以下で、この「もらう」が「あげる」「くれる」にはない特性を持つことを詳述する。そして「もらう」が関与するコミュニケーションの場は、直示的ではなく参照的な表現が生起する発話の場であることを論じる。

3 三項関係のコミュニケーションの場：「直示」的＋「参照」的発話の場

熊谷（2011）は、ことばは誰かが別の誰かに何かを伝えたいからこそ発せられるのだと主張している。前節で扱った話し手と聞き手の「やりとり」は、お互いの意思のやりとりであった。さらに言語が発達すると、話者と聞き手の「外の世界」の物がコミュニケーションの場に導入される。これを熊谷（2011）は共同注視に基づく「共視対象」と名付けている。共視対象を示すのに、最初は指さしなどの動作を伴うが、言語の獲得が進むと、指示詞などの何かを参照する語彙の力を借りる場合もある。話し手と聞き手に加えて共視対象が関与するコミュニケーションの場は、三項関係と呼ばれる。指さしなどの行為や、指示詞は何かを示す際の参照点を表す機能を有する。したがって、三項関係のコミュニケーションは参照的なコミュニケーションであると言える。

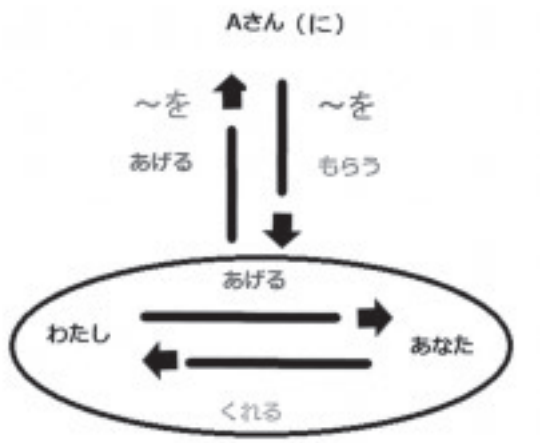
■図6　話し手・聞き手・共有映像の関係図



熊谷（2011）

日本語の授受動詞が関与するコミュニケーションの場にも三項関係が認められる。

■図7　三項関係の授受動詞



この図が示唆するのは、授受動詞にも「ウチ」の関係と「ソト」の関係が関与するということである。日本語の授受動詞は、しばしば「やり／もらい」表現と称されるが、この関係は「ウチ」の者が「ソト」の者に「やる」ことと、「ウチ」の者が「ソト」の者から「もらう」ことを表している。そして、前節で論じたように、「ウチ」の者同士のコミュニケーションは「やり／もらい」ではなく「あげる／くれる」を基本とする。

「あげる」「くれる」が一つのセットをなし、「もらう」は別であるということは意味的な側面からも説明できる。

まず、「あげる」「くれる」の物のやりとりは、受け手にとって恩恵を表すものに限られる。

20）プレゼントをくれた。
21）お祝いをあげた。
22）（野球の解説で）この状況では、もう一点もあげられませんね。

ところが「もらう」は恩恵的な名詞とともに迷惑を含意する名詞句とも共起する。

23）病気をもらった。
24）試験で赤点をもらった。
25）（サッカーの試合で）ファウルをもらった。

このような名詞句と「あげる・くれる」が共起することはない。

26）＊病気をくれた。
27）＊赤点をあげた。
28）＊（サッカーの試合で）ファウルをあげた。

また、「くれる」と「もらう」の違いとして、前者は「特定の与え手」を含

意するが、後者は「不特定な与え手」を含意しうるという点がある。

29）?? これは、人がくれたケーキです。
30）これは、人からもらったケーキです。

「与え手」と「ウチ」「ソト」の関係については、後の節で再び触れる。「ウチ」の者同士の発話の場は直示的な発話の場である。そこに生起する授受動詞は「あげる」と「くれる」に限られることは前の節で見た。「ソト」の者が関与する発話の場には、もう一つの授受動詞である「もらう」が生起する。しかし、そのような場でも「あげる」「くれる」が生起することが可能である。そのような場合については、後の節で触れることとする。

4 補助動詞を伴う恩恵の授受表現

前節で物の単純授受では「あげる・くれる」が肯定的な意味を持ち、「もらう」が否定的な意味も持ちうるということを指摘した。補助動詞としてこれらの動詞が使われる場合はどうだろうか。

単純な物の授受の場合とは反対に「〜てあげる（やる）」「〜てくれる」は、動作の受け手にとって否定的な内容を示す場合がある。

31）勉強しなかったら、試験で赤点をつけてやるぞ（つけてあげるわよ）。
32）よくもそんなことを言ってくれたわね。

「〜てもらう」は肯定的な内容に限られるが、従属節に生起する場合は迷惑な事柄も表しうる。

33）そんなことを言ってもらっては困る。

しかし、この文の従属節を主節に移し替えると、肯定的な意味に変わる。

34）（だれかに）そんなことを言ってもらった。

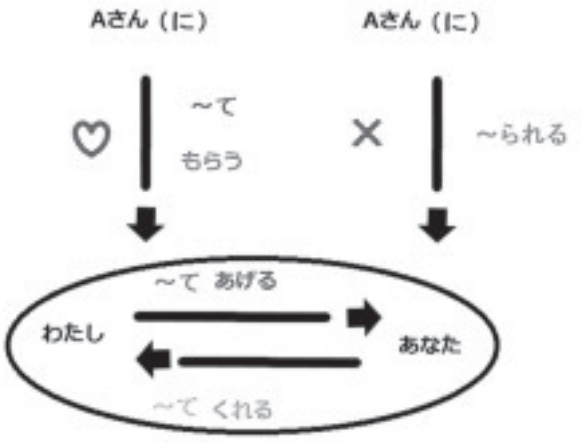
したがって、ここでも「〜てあげる・〜てくれる」がペアをなし、「〜てもらう」はそれらとは別の機能を有することになる。そして、「〜てもらう」とほぼ反対の否定的な意味を表現するのは、いわゆる「迷惑受け身文」である。

35）上司に肩をたたいてもらった。
36）娘に金持ちの家の息子と結婚してもらった。
37）上司に肩をたたかれた。

38）娘に金持ちの家の息子と結婚された。

以上のことを図示すると、次のようになる。

■図8　恩恵の「〜てもらう」と迷惑の「〜られる」



さらに「ソト」から「ウチ」へ行為が及ぶ「〜てもらう」と、「ウチ」から「ウチ」に行為が作用する「〜てくれる」では、用法に大きな違いが見られる場合がある。

「ウチ」の関係にある話し手が、「ウチ」関係にある聞き手にお礼を述べる場合は、その理由を表す節に「〜てくれる」しか生起しないということがある。

39）わざわざ来てくれて、ありがとう。
40）＊わざわざ来てもらって、ありがとう。

もちろん直示的なやりとりではなく、その出来事を報告する文脈では「〜てくれる」とともに「〜てもらう」を使うことが可能である。

41）その人がわざわざ来てくれたので、お礼を言った。
42）その人にわざわざ来てもらったので、お礼を言った。

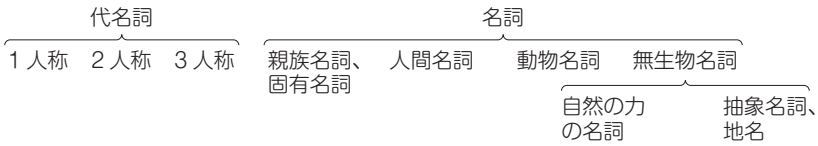
以上、「人」が関与するコミュニケーションの場での補助動詞的な授受動詞の振る舞いについて見てきた。この場合においても、直示的な「〜てあげる」と「〜てくれる」の用法は、「ソト」の者を参照する参照的な「〜てもらう」の意味的、用法的と違いがあることを指摘した。次の節では「人」以外のモノが関与する授受表現について考察を進める。

山下 好孝
YAMASHITA Yoshitaka

5 人以外のモノが関与する恩恵の授受表現

シルバースティーン（角田［1992］からの引用）は、様々な言語を通じて名詞句を分類し、これらの名詞句がある種の階層を成すことを示した。

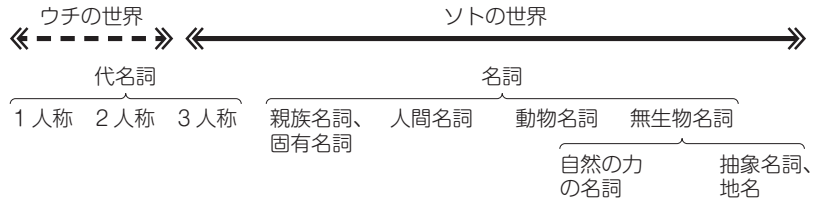
■図9　シルバースティーンの名詞句階層



角田（1992）p39より引用

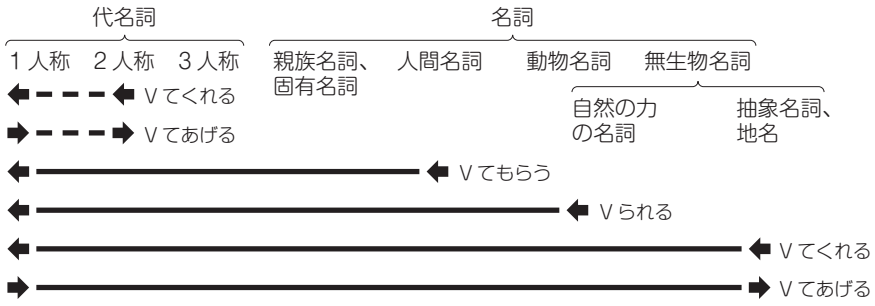
この階層は様々な学者の解釈を受けているが、左側は「ウチの世界」、右側は「ソトの世界」を表していると考えることもできる。

■図10　シルバースティーンの名詞句階層と「ウチ」「ソト」の世界



また恩恵の構文や、迷惑受け身の構文で、動作主になるのは以下のような範囲で表すことができる。

■図11　シルバースティーンの名詞階層と恩恵の授受、迷惑受け身の方向



「ソト」の世界の人が恩恵行為を「ウチ」の世界の人に行った場合は「～てもらう」構文で表すことが出来る。

43）その人に家に来てもらった。

「ソト」の世界の人が迷惑行為を「ウチ」の世界に行った場合は、「〜られる」という受け身構文で表す。

44）その人に家に来られた。

行為者が「人」ではなく「動物」の場合は「〜てもらう」が使いにくくなる。その場合は「〜てくれる」しか使えない。

45）?? 愛犬に、取り逃がしたウサギを捕まえてもらった。
46）愛犬が、取り逃がしたウサギを捕まえてくれた。

迷惑行為の場合は、「人」と同様「動物」も行為者になりうる。

47）愛犬に、せっかく作ったプラモデルを壊された。

では「無生物」が行為者になる場合はどうであろうか。恩恵の行為の場合は「〜てくれる」構文が使えるが、迷惑行為の場合は受け身構文にはしにくい。

48）* 爽やかな風に吹いてもらった。
49）爽やかな風が吹いてくれた。
50）?? 強い風に吹かれた。

「無生物」が迷惑受け身文の行為者になるのは、慣用句的な「雨に降られた」か、従属節に生起する場合に限られるようである。

51）強い風に吹かれて、我々はなかなか前進できなかった。

恩恵の授受構文のうち「〜てもらう」構文は、行為者が人である場合に限られる。それに対して、恩恵の「〜てくれる」構文では行為者が「無生物」であってもかまわない。

52）ようやく涼しくなってくれた。　　益岡（2013）p.28
53）（野球のヒーローインタビューで）
つまった当たりだったんですけど、ホームランになってくれてよかったです。

「〜てくれる」のこのような無生物が行為者になる構文は、話者側からの一種の評価表示機能があると益岡（2013）は述べている。そのため、聞き手の評価が関わる疑問文の形で用いることはできない。

54）？ようやく涼しくなってくれましたか？
55）？つまった当たりがホームランになってくれましたか？

では、「無生物」のモノが恩恵の受け手になることは出来るだろうか。過去の日本語教育能力検定試験問題の中に「行為の授受には恩恵的意味を伴うことが一般的であるが、恩恵の意味を表さない用法も存在する」という記述とともに、以下のような例文が挙げられていた。

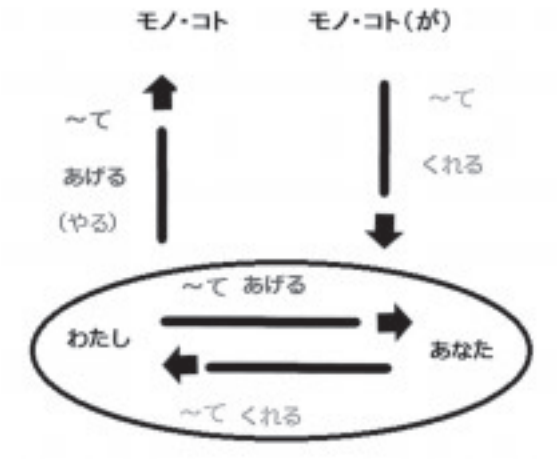
56）そのシャツにストールを合わせてあげると、華やかになります。
平成27年度日本語教育能力検定試験問題　試験Ⅲ

その他にも私が採取した料理系のYouTube動画の例では以下のようなものがある。

57）（フライパンに）油をひかないで、コロッケをのせてあげます。
58）そして、ヘラで潰してあげてください。
59）まずね、（コロッケの）表面をカリッと焼いてあげるんですね。
60）コロッケがカリッとしたら、ネギを入れてあげます。
YouTube　まかないチャレンジ　河原のあべ

これらの「〜てあげる」の用法には、その道の専門家が自分の専門分野で扱うモノに対して愛情を持って接しているという特徴が見られる。そして当然、愛情をかけたプラスの意味合いでこれらの発話を行っている。「無生物」のモノは行為者である話者の「恩恵」を感じることはないが、話者がプラスの評価をする行為を行うことで愛情、愛着を表しているという解釈が可能である。

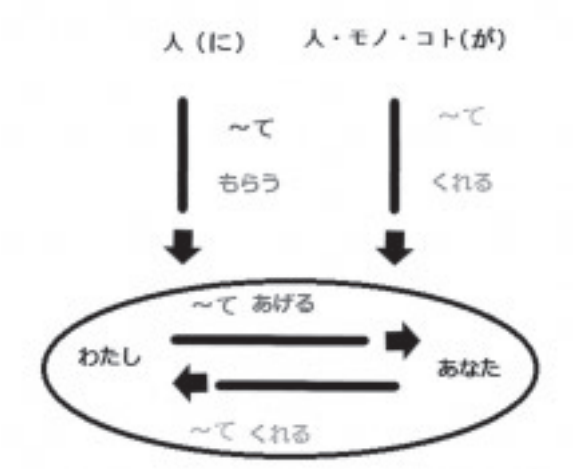
■図12 「無生物」に対する授受表現



以上、モノ・コトに対する「〜てあげる」「〜てくれる」構文には、人に対する恩恵の授受の枠から離れた評価や愛情を表す用法があることが分かった。さらに、参照の世界における「〜てもらう」と「〜てくれる」の用法の

違いを図示すると次のようになる。

■図13　参照の世界における「〜てもらう」と「〜てあげる」



文法的には「ソト」の世界が関与する表現として、以下の両文が成り立つことになる。

61）先生が来てくださって嬉しかった。
62）先生に来ていただいて嬉しかった。

山口（2008）によると、「〜ていただく」を使った用例の方が多く見られることが報告されている。さらに、両者が混交した文もよく見られる。

63）先生が来ていただきました。拍手でお招きください。

「〜てくれる」と「〜てもらう」を比較すると、「人」との結びつきがより強いのは「〜てもらう」の方である。そのため「〜てもらう」を使う表現が好まれるのではないだろうか。

6　最後に

日本語の授受表現は、外国人学習者にとって学習が難しい項目である。「あげる」「くれる」「もらう」という3種類の表現を一度に提示するのではなく、発話の場を限定して提示する必要がある。

本研究ノートは以下の点を明らかにした。

(1) 直示的な発話の場では「あげる」「くれる」のみが生起する。

山下 好孝 YAMASHITA Yoshitaka

(2) 人が関与する参照的な発話の場では、基本的に「あげる」と「もらう」が生起する。
(3) モノ·コトが関与する恩恵表現は、評価·愛情の意味が生じ「〜てあげる」と「〜てくれる」が生起する。
(4)「ソト」の人が「ウチ」の人に恩恵の行為を行う場合、「〜てくれる」よりも「〜てもらう」の方が好まれる。

日本語教育に於いては、まず直示的な世界での「あげる」「くれる」表現を導入し、やりとりの活動を通じてその使い方を指導するのがよいであろう。次に「もらう」を導入し、参照表現としての報告の文型の中でその使い方を指導する。その際には「迷惑受け身」の構文との対比を活用する。最後に、モノやコトが関与する授受表現では「〜てあげる」「〜てくれる」が使われる例を提示する。

この研究が日本語教育の現場で役に立てば幸甚である。

参考文献

熊谷高幸（2011）『日本語は映像的である』、新曜社

益岡隆志（2013）『日本語構文意味論』、くろしお出版

日本国際教育支援協会編（2016）『平成27年度日本語教育能力検定試験問題』、凡人社

織田哲司（2016）『「人間らしさ」の言語学』、開拓社

スリーエーネットワーク編（2013）『みんなの日本語　初級Ⅰ　第2版　翻訳・文法解説　ローマ字版【英語】』

角田太作（1992）『世界の言語と日本語』、くろしお出版

山口真里子（2008）「授受補助動詞の使用制限に与える敬語化の影響について:『くださる』『いただく』を用いた感情表現を中心に」『国際広報メディア・　観光学ジャーナル』6巻、p69-90　http://hdl.handle.net/2115/3457

山下好孝（1999）「「から」「ので」「て」―日本語の原因·理由を表す表現について―」『北海道大学留学生センター紀要　第3号』北海道大学留学生センター　pp.1-14　https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/45574/1/BISC003_002.pdf

山下好孝（2016a）「直示と参照に基づく日本語指示詞の再検討」、『国際広報メディア・観光学ジャーナル』23巻、pp51-62　http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/62975

山下好孝（2016b）「直示と参照に基づく「だけ」と「しか〜ない」の意味解釈」、『北海道大学国際教育研究センター紀要』20巻、pp93-102　https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/65698

山下好孝（2017）「直示と参照に基づく「前（まえ）」と「後（あと）」の意味分析」、『国際広報メディア・観光学ジャーナル』26巻、pp141-152　https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/68748

山下好孝（2020）「直示と参照に基づく日本語助詞「は」と「が」の考察」『国際広報メディア・観光学ジャーナル』30巻、pp91-103　https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/77571

横田隆志（2009）「「日本語の視点」から見た授受表現の導入方法についての一考察」『北陸大学紀要』33巻、pp143-151　https://hokuriku.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=36&item_no=1&page_id=32&block_id=106

（令和3年4月5日受理、令和3年7月9日採択）